

広島県私立幼稚園連盟との共同研究の経緯

七木田 敦

How the collaborative research with Hiroshima Private Kindergarten League began

Atsushi NAKAKIDA

「広島大学地域貢献研究」は、地域社会が解決に困っている課題や実現したい夢を研究課題として提案してもらい、それを広島大学の人材と資源で研究を行い、その成果を地域に還元し、大学の研究能力を地域課題の解決に活用することを目的に平成14年度に創設された。平成18年に広島県私立幼稚園連盟（理事長 奥先 楓）より、「幼児教育現場における幼児理解と支援方法ならびに関係機関との連携に関する実践研究—幼児教育施設における軽度発達障害への対応について—」というテーマで応募があった。提案書には、「いままでも県内の私立幼稚園において、地域や園の実情に即して障害のある子の幼児教育を実践してきたところですが、近年、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある幼児の増加が著しい状態です。また、障害をもつ子の一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、その持てる力を高め、成長、発達するために、適切な指導・援助を行うことを一園だけで対応することが、ますます困難な状況となっています。そのような背景から、広島大学の専門家の参画を得て、保育実践現場として対応する内容を探ることを目的として以下の研究課題を提案します」とある。

これを受けて、附属幼年教育研究施設の七木田敦教授、山崎晃教授、杉村伸一郎助教授、そして大学院医歯薬学総合研究科の小林正夫教授による研究体制を組んだ。研究目的は、以下の通りであった。「近年、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある幼児の増加が著しく、一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、その持てる力を高め、成長、発達するために、適切な指導・援助を行うことを一園だけで対応する

ことが、ますます困難な状況となっている。本研究では広島大学の保育支援グループが「web幼稚園ネットワーク」を構築し、参画運営することで、具体的な実践情報提供をしたり、保護者への対応を提案したりコンサルテーション機能を果たすことを目的とする」。

平成18年1月13日広島市ガーデンパレスにおいて広島県私立幼稚園連盟研究部13園代表と研究の手続き、展開について協議をした。その後、1月18日に研修会、3月2日、3月9日に研究指定になっている幼稚園訪問をした。また7月3日、4日と研究指定になっている幼稚園を訪問した。広島県私立幼稚園連盟との全体会議を7月25日、2月26日に開催した。

本事業を通じて、以下のような研究成果を得た。

現在、義務教育段階では「特別支援教育」の平成19年度本格実施を前に各県市町村において、児童生徒一人一人のニーズを把握し、担任、特別支援教育コーディネーター、保護者などの相談を受け、助言するなどといった機動的かつ柔軟に学校への助言等が行える専門家による巡回教育相談が制度化されている。就学前教育においてもこのような制度やシステムが望まれるところであるが、専門家の質量ともまだ十分でないのが現状である。また具体的な問題として考えると、特に専門家によるコンサルテーションのサービスが受けられる地域とそうでない地域、すなわち地域差の問題もある。今回、大学研究者が「web幼稚園ネットワーク」での支援の他に、研究に参加した幼稚園のなかで、広島市、福山市、東広島市、廿日市市において幼稚園に赴き、研究会を開催したことも本研究の目的遂行にあたって効果的であった。